

東日本大震災での宮城県東松島市議会議員の行動

1. 東松島市の被害概要

人口約4万3千人中 死者1,110人(内震災関連死者66人)、行方不明者24人  
 家屋被害 15,080世帯中 全壊5,515、大規模半壊・半壊5,589、一部損壊3,506  
 損壊家屋は97%

2. ヒアリングの概要(議会、議員、職員の活動のみを要約)

<佐藤元議長>

議会の最終日に地震発生。直後に閉会を宣言し議員が帰ったのを確認後、すぐに津波が発生し庁舎に戻った。災害対策本部が立ち上がっていたが、議長は本部のメンバーになっておらず、腕章をつけて押しかけで本部に入った。しかし、何をすべきか悩んだ。広域行政事務組合(\*1)の議長代理でもあったので、その仕事があるだろうと思ったが、その組合も麻痺していて、職員も右往左往しており、私が指示をした。

いち早く議員の安否確認を行い、議員は22名中20名が無事、1名死亡、1名は流されたが凍傷で病院にいた。

震災時の議長の仕事はマニュアルがない、議会の責任者として何をやるか考えるしかない。自分の家も、ほとんどの議員も被災した。その時点で議員の統一行動は不可能だった。

発災3日目、市長と二人で陸上自衛隊のヘリで被災状況を確認した。全国市議会議長会基地協議会の副会長も兼ねていたので、海上自衛隊にも応援を頼んだ。自衛隊派遣は知事の判断だが、知事を動かす仕組みが面倒である。携帯電話が通じる15km先のところまで動いて(国に)電話したが、官僚は「どこの部署を通してくれ」と言う一点張り。そこで、基地協議会会長(千歳市)に電話し、事務局のトップと連携して助かった。人脈は大切。国を動かすのは大変なことである。相手はテレビでしか見ていないから。

議長としては自分が思いついたことをしたから、地元には「なんで来ないんだ」と不評をかった。議員団としてはなににもできなかった。避難者は議場まで入り、犬までいた。

<上田議員>(注:上田議員は元航空自衛官)

一晩で1445名集まり、そのまま避難所の運営を3月31日まで行った。最初の10日間で避難所運営のための組織を作り上げた。学校の卒業式はあきらめたが、入学式のために避難者を徐々に移した。避難者に上下はつけられないが、家のある人には帰ってもらって、足を伸ばして寝られるようにした。

(教室ごとに)29室各部屋の班長をつくり、災対本部の内容も伝えた。役を決めて、食事確保や水の番の当直を決めて盗まれないようにした。地域の長が

いたので、「あなたが長ですよ、私が動かしますから」といって運営した。文書（マニュアル）があってもうまくいかない。みんなが被災者だから。「一週間飲まず食わずでも死なないから大丈夫」とみんなに言った。

避難所の管理者は学校長なので、「これをやりますよ」と伝えながら運営をした。風邪の人の隔離や、よその避難所で断られた人も受け入れた。ペット連れの人は別にした。4日後には医者が来たので診療室を作った。直接来たボランティアには「市を通してください」と受け入れなかった。各部屋だけはしっかり運営してくれと頼んだ。

#### <小野議員>

消防団の分団長として20分で地元に戻った。自主防災会と消防が残っていた。その時点で「女川に4mの津波」の情報があつたが、チリ津波のときの引き波が先入観としてあつたし、前回地震のこともあり、変な安堵感があつてみんな海を眺めていた。海が盛り上がってきたのを見て、普段なら登れないようなところを、あわてて山に登った。

自分の島（宮戸島）の内海に面している高台の人たちが、備蓄の米や布団を学校に差し入れてくれた。それぞれの浜ごとに交代でおにぎりを作った。次の日から、各区の区長、自主防災会、私、役場の人で朝晩、対策会議を開いた。

寒さ対策、食事確認、すべて浜ごとに分けた（それが確実）。困ったのはトイレ。水を汲んで流したがすぐにいっぱいになり、たまたま衛生車が山に避難していたのでそれを使った。船で3日目に本土に渡った。毛布と水がヘリで3日目に届いた。消防団は別に食事をとった。

ある意味、（橋が落ちて）孤島となったのがやりやすかった。不特定多数の集まりではないから。半月間、ボランティアや取材は受け入れなかった。（島だから知らない人は入れられない）。良かったのは、4つの浜それぞれ、考え方、ライフスタイルが違っていても拘らず、助けあつたこと。市役所には私も毎日顔を出したが、議員としてではなくみんなと同じ被災者として。

#### <佐藤元議長>

議会としては、いつのまにかそれぞれの役割が決まっていっただ。それは、過去の小・中震災の経験があつたから。私が指示した訳ではない。例をいうと、石巻の議員と情報交換した。向こうは「わがほうでは何が欲しい」と言っていたが、「そんなことを言っていたら支援は届かない。この地域の議員が意思を統一して、県議会と協力して中央に言わないと支援なんかこないからね」と言い、そのようにして東京に行ったら、政務官が会ってくれた。

### 3. 質疑応答

Q<鍵屋>被災した地域の議員とそうでない議員がいると温度差がある。議会

は意思が統一されてこそ動きやすいので、やりにくさはなかったか。全体を見てくれと説得したのが議長の役割だったのか。

A<佐藤>議員安否がわかってから一堂に会して何をやったかという、それも不可能。4月5日にやっと20人が集まって震災対策の特別委員会(全員)を立ち上げた。まとまった行動には、20日、30日もかかる。

Q<鍵屋>議員であるが故にやりやすかった面はあるか

A<小野>ある。

<大友>逆に頼りにされすぎて、だんだん「やるのが当たり前だ」になってきた地区もあり、奥さんを亡くされた議員は辛かったと思う。自分とのギャップがある。非難の声に変わってしまうこともある。

<佐藤>自主防災組織は確立されていた。そのリーダーを超えた行動は恐らくしなかったのだろうと思う。控えてくれたと思う。

A<小野>毎日、要望対応状況も含め、議員が役所から情報をもってきて、住民に伝えた。

<小野>企業団には議長を通じて要望をしたところ、島にすぐに水道パイプが通った。議員でなかったら叶わなかったと思う。「おまえがいなかったら、いつまで陸の孤島だったかわからない」と住民に言われた。議員は何にしても発言の大きさが大きい。電気も早く通した。道路もかさ上げできた。

Q<鍵屋>議員が自分の自治体とやりあうのではなく、企業に言ったのか。

<佐藤>(わがままは)私が許さない。普通の議員はメンバーではないから。議会は議会で話をまとめて、議長が押し上げるほうがいいのではないか。

Q<鍵屋>議長の資質が大きい気がする

A<小野>議長が毎日本部に詰めている。自分が行きたくても、地元がある。だから、議長に伝えられてありがたかった。毎日行っていると、役所の雰囲気はわかってくる。部長、課長には要望を言った。基本的に(役所には)議員は市民の代弁者として扱ってもらった。

<小野>避難所で議員は、仕事をするときが一番最初。何かをもらうときは最後。食事も最後。「ほれみろ」と言われたくないから。せつない事情もある。

<佐藤>在宅の人がいちばん困ったと思う。

<小野>支援が行き届いてくると、自分で余分に確保するようになる。仕組みがわかってくると人が変わる。避難所で太る人もいる。

<佐藤>手厚すぎる支援は人をだめにする。

Q<川口>22名の議員がそれぞれの地域を代表する土地柄なのか、議員同士のバッティングはないのか。

A<佐藤>バッティングは起きるが、議員にも序列がある。暗黙のうちに、下位の者が我慢する。住民もわかっている。すべて美しい話ではない。

Q<鍵屋>議長と市長が同じような意見のところと、違うところがあると思うが。

A<佐藤>たまたま、市長と県議の仲がいい。市長は元議員で常々から仲間。

Q<鍵屋>災対本部に議長をどう位置付けるか。オブザーバーがいいのか。市長の下ではやりにくいと思うが。

A<佐藤> 議会が市当局と並行して災対本部を設置するのは多大な影響を及ぼすことが懸念される。むしろ、市の災対本部の中に正副議長・常任委員長の範囲内で議会部として参画する方が良いと思われる。ただし、(議員自身も被災しているので)参画を義務化することや、身分補償(費用弁償)の課題がある。位置付けると義務になるから。反対に「オブザーバー的」ではその当時の議長が本当にやるかどうかわからない。

<小野>議長が毎日詰めていると安心。ただの議員だと「どうしてここにいるの?」と思われる。

Q<鍵屋>災対本部の中に議会を位置付けるのは、実際としては効果的ではないか。

A<佐藤>二元代表のひとつの組織として物を申すのだから、弊害がある。

Q<鍵屋>議会が活動し始めると、批判が始まったのではないか。

A<佐藤>4月5日に立ち上げた特別委員会はいくまでも情報収集。「どうしても行政の対応がなまぬるい」となれば当局に物申すというスタイル。

<小野>すべての権限は議長にお任せのほうがいい。行政を信頼しなければ。

<佐藤>国への陳情は、行政と議会が一体となるのがいい。議会の権限は大きいから、それを振り回すべきでない。専決を依頼する前に、市長とも十分下話をしているから。

Q<鍵屋>復旧の段階、議会活動も立ち上がってからは、「災害対策はどうだったのか」とか「今後はこうすべきではないか」とかかなり厳しく(行政を迫るように)なったのか。

A<佐藤>それはない。逆に復旧・復興計画をいかに早く進めるかである。

<佐藤>責任追求型ではない。復興の途中である。検証するには早い。責任追求していたら困るのは被災者である。たまには変わった人もいるけれど。議会としては(行政の動きは)許容範囲の中。

Q<鍵屋>最後に、議員として「これはやってはならない」ということは何か。

A<佐藤>スタンドプレー。リーダーを超えてはだめ。分をわかまえること。

\*1 : 2市1町のゴミ焼却、消防、し尿処理に事業を担当する組合

\*2 : 2003年7月26日宮城県北部連続地震(最大震度6強)時における避難所